

最優秀賞（山口県知事賞） 高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）

代表者 田中 隆子（地域づくり分野／下関市）

活動の動機・目的

代表が4人の親の介護と看取りを一人で背負ったことが引き金で関節リウマチになり、現在身体障害2級になった。その経験から ①次世代の人たちには自分のような苦勞はさせたくない。②人間は一人で生きれないし、死ねない。③共に支え合う社会の必要性。以上のような「幸せな高齢社会の創造」をめざしこの組織を立ち上げ、次のような目的で活動している。

- ①少子高齢社会の現実をしっかりと見つめ、すべての人たちが自立し共に支え合い安心して生きられる市民社会の創造を目指す。
- ②少子高齢社会の諸問題を解決するための啓発活動を展開しながら、学んだことを事業にむすびつける。
- ③今、私たちができることは何なのかを一人でも多くの人と学び、活動したい。学びと実践を両輪として活動し、準備会も含め2019年度で20年を迎える。



楽しそうなサロンの様子

活動の内容

①市民福祉講座

世の中の時流を見ながら、その時々でひとりでも多くの人と共に学んで共通認識を深め、私たちにできることは何なのかを探り、実践につなげていきたいとの思いで16年間継続して開催している。

②「介護予防のためのサロン」（月1回 第一土曜日）

高齢社会が進む中、高齢者問題や老人医療費、介護保険料への対応が急務となっている。これらを維持可能にするためには健康寿命をのばすことが求められている。そこで『健康寿命をのばしましょう！』をキャッチフレーズに体力向上と健康づくり、閉じこもり防止と地域のコミュニケーションづくりなど、介護予防を目指した活動として設立当時から展開している。

③時代のニーズに合った講演会・シンポジウム・調査研究

④広報活動（会誌発行・HP・サロンレポート発行・ブログなど）

⑤子どもプロジェクト

子どもを取り巻く環境をよくし、貧困の世代間連鎖を断ち切り「今、笑顔になれる社会」を構築したいと思い子どもの貧困問題にかかわるため、2016年7月「生野きらきら子ども食堂」を立ち上げた。子どもから高齢者まで集う地域コミュニティの場として運営している。

これからめざしたいこと

私たちは男女共同参画の視点ですべての活動を行っている。高齢者問題・子どもの貧困・どちらも男女共同参画と切り離すことはできないことから、2016年度に子育て支援の一環として「子ども食堂」を立ち上げた。これは女性の貧困のセーフティネットの一つだと思っている。今後は、中学校区を中心にして、下関市全体に「子ども食堂」を作るお手伝いをすることによって、地域における子育ての輪を広げていきたいと考えている。子ども食堂が地域の住民の核となり、まちづくりにもつなげていけるよう努力していきたい。下関市が福祉施策のしっかりとしたまちになり、子どもから大人までここで暮らしたいと思えるまちになることがわたしたちの望みである。